

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の特徴	「お一人お一人の思いを大切にし、健やかな日々が送れるよう支援します。地域の皆様に愛される施設を目指します。」を理念に掲げ、代表の自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気支援を行っている。利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	7人	1人	1人	1人	人	2人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①利用開始2～3週間後に初期モニタリングを実施し、本人家族の状況の把握に努める。 今の支援で良いこと、喜んでもらったことも具体的に記載する。</p> <p>②一人一人の「本人の目標（希望）」介護計画の表紙に明記する。</p> <p>③自分たちの仕事の段取りを優先せず、利用者のペースに合わせる。</p> <p>④地区外の利用者の自宅での暮</p>	<p>① 開始 2～3 週間以内の初期モニタリングを実施しケアに対する反応などが共有できていなかった</p> <p>② 七夕の際、各利用者に「～したい」目標など書いてもらい、カルテに記入し本人ができるよう支援、できることを職員で話し合い行った。</p> <p>③ 食事、入浴は本人のペースに合わせ、食事内容や排せつ介助等本人の状態に合わせて行っている。利用者全員が食べ終わってから食器を片づけるということにはできていないが、利用者個別に食べ終わった方から食器の片づけやトイレ誘導を行っている。</p> <p>④ 家族が細かく把握している事</p>	<p>色々取り組み、実施されている。 改善できていない計画については今後も取り組まれたい。 真剣に取り組まれたことは、皆さんの振り返りになり有効だと思う。</p>	<p>① モニタリングと位置付けてはいないが、現在も送迎時などで折に触れ現状について確認はしている。初期のケア内容に対する本人の反応や家族の意見などを「初期モニタリング」として記録に残す。</p> <p>② 目標を聞く時にもっと具体的な内容を確認できるようにする。そこで知りえた目標をケアプランに反映させ、支援内容に反映させる。</p> <p>③ 以前の暮らし方については支援の際に意図的に情報を得る努力をする</p> <p>④ 利用者のいる地区の民生委員</p>

	<p>らしぶりを把握する。</p> <p>⑤利用者だけでなく地域の方も緊急の避難時状況により受け入れる。</p> <p>⑥ケアマネージャー・管理者だけでなく、スタッフも自治体等の会議に参加する。</p> <p>⑦苦情とはいえなくても、日頃の訴えを見逃すことなく、気付いたことは職員で共有し対応策を検討する。運営推進会議にスタッフも年1回は出席する。</p> <p>⑧研修で学んだことは繰り返し実践し定着させる。</p> <p>⑨ミーティングの時はテレビをつけておく。利用者の前で他の利用者の報告をしない。</p>	<p>例については家族に確認することで行えている。地域内の人については民生委員、地域、ボランティア、駐在さんなどと情報を共有することができるので協力して支えることができている。</p> <p>⑤ 地域の方が避難が必要になることがなかった。しかし他地区で避難が必要になった時に利用者を避難所ではなく、めぐみの宿泊を利用することで安全を確保することができた。</p> <p>⑥ スタッフが公民館役員、婦人会（食生活改善推進委員）の役員、消防団への加入など活動には積極的に参加し活動している。</p> <p>⑦ 運営推進会議に時に CM が参加することはあったが、職員が出席してない。運営推進会議の中で意見などがあると速やかに対応している。月一のスタッフ会を活用し気になることなど話し合い対応。家族からの意見も報告し共有、対応した。</p> <p>⑧ 研修したことはスタッフ会で報告。知識の共有に務めている。</p> <p>⑨ ミーティング時はテレビをつけておくということは徹底で</p>		<p>さんに声掛けし連携を図る</p> <p>⑤ 地域の人たちと連携してケアを考える機会を持つ</p> <p>⑥ 地域ケア会議を行い、地域のニーズを掘り起こす。</p> <p>⑦ 運営推進会議の日に訪問担当になった職員が会議に参加する</p> <p>⑧ 一人一人がスキルアップの為に研修目標を決める</p> <p>⑨ 業務中の利用者に関する報告は声の音量を小さくして話す</p>
--	--	---	--	---

		きている。スタッフ間の申し送りを利用者のいるフロアで行う為どうしても申し送り内容が聞こえている。		
B. 事業所の しつらえ・環境	特になし		用事があって訪ねた時にすぐ呼んでくれる体制ができています。利用している人が心地よいと思える環境になっていると思う。来たくないという人がいないのがいい。ここに来たら人と話せる。それがなにより。	特になし
C. 事業所と地域のかかわり	事業所が地域に対して出来ることをアピールする。	色々な人が顔を出せる場となっているので、近所の人の出入りはよく行われている。 ・地域行事には参加できている。利用者の友人、知人親戚の方が面会が増えている。 ・近所の子供が遊びにきたり職員の子供が来て触れ合うことができた。 ・小中学生、保育園児、ボランティアの訪問。地域の各機関の活動には積極的に参加 ・場所は日土であったが、介護出前講座を主催し実施した	地区の中で悪いうわさを聞いたことがない。介護的なことの相談は常に受けているということで心強い。「話す人がいない」と言っている人が気軽に来ることができる場所であってほしい。	このまま続けてほしい
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	地区外の利用者の地区行事と一緒に参加する。		真穴地区ではできている。それ以外の範囲に無理に広げる必要があるのか疑問。その事業所のある地域の行事への参加でよいと思う。地区内の気になる人は情報を共有しあっている。老人会や民生委員の集まりに来て介護保険制度、めぐみのことなど説明してほしい。	老人会など求めに応じ、介護保険、小規模多機能型居宅介護について説明する機会を持つ

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の内容を家族にも報告する。</p>	<p>事業所内に掲示した。</p>	<p>運営推進会議は活発に意見交換がされてとても有効だと思う。地域の人のが話題になり、会議で話した人が利用に繋がることもある。地元の人が多く参加しているのがめぐみの運営推進会議の強み。これを続けてほしい。</p>	
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>避難訓練を運営推進会議の時に実施し、意見をもらう。</p>		<p>区の役員会などでも防災計画の話はしている。推進会議メンバーが入れ替わった時には防災計画を説明してほしい。被災して困った人がいる時などめぐみに相談するなどできて助かっている。</p>	